

津和野町モビリティサポートモデル事業 ～障がい者にやさしい観光まちづくりを目指して～

津和野町ユビキタス運営協議会

1. 事業概要

津和野町は、700年以上の歴史と文化を持ち、山陰の小京都と称される日本を代表する観光地です。2009年には、「ミシュラン」と双璧をなすフランスの旅行ガイドブック「ブルーガイド」で津和野町は3つ星（必見の観光地）を獲得し、これをきっかけとして障がい者、外国人などの移動制約者の観光客が増加しています。

津和野町内の中心地は、バリアフリー化が進んでいますが、伝統的な観光施設が多いこともあり観光施設へのアクセスルートには、多くのバリアが存在しています。



蓋のない水路



観光地前の階段

図 津和野町内のバリアの状況

例えば、津和野町に巡ら

されている錦鯉で有名な水路の多くには蓋がなく、歩行者にはバリアとなっているのが現状です。

また、津和野町を訪れる日本人観光客の半数以上は、高齢者であり、円滑で安全な移動が困難な場面が多く見受けられます。

このような課題に対応するため、高齢者や障がい者、外国人観光客などの移動制約者に対応できる人材の育成を進めていますが、人的資源には限りがあり、すべてのニーズに対応することは困難です。

そのため、国土交通省の平成22年度モビリティサポートモデル事業により、津和野を訪れる移動制約者に対して、ICTを活用し、注意喚起情報や緊急情報など、安全に移動するための情報をわかりやすく提供するための実証実験を行っています。

2. 提供サービスとシステム概要

(1) システムの概要

本事業で構築するシステムでは、街なか（屋外）や美術館・博物館（屋内）に位置特定インフラ（無線や赤外線を発信するマーカ）を設置し、そこから発信される場所情報コードを利用者が持つ専用の携帯端末で受信することで現在位置を特定することで、その場所に応じた地図情報や、バリアフリースイレの位置などのバリア情報等を提供します。



街路灯などに設置した無線マーカ



美術館天井に設置した赤外線マーカ

図 街なかに設置された場所情報コードを発信するマーカ

(2) システムの特徴

- ①情報発信機器として屋外・屋内ともに場所情報コードを発信するマーカを利用することで、屋外・屋内の区別なく、同じ携帯端末を利用し、障がい者や高齢者に情報提供が可能です。
- ②携帯端末は、多言語（日本語・英語・中国語・韓国語）での情報提供が可能であり、外国人の移動支援にも役立つ仕組みです。

(3) 情報提供の対象者

- ①高齢者 ②車いす使用者 ③肢体障がい者 ④外国人 ⑤その他（はじめて訪れる場合）

(4) サービスの概要

- ①移動制約者への注意喚起・緊急情報提供
- ②現在地位置案内（地図情報）
- ③施設情報提供（バリアフリースイレ、休憩施設等）
- ④観光施設情報
- ⑤場所情報コードを利用した現在地から近いバリアフリースイレなどの目的施設の検索・情報提供

なお、それぞれの情報は、外国人も対象とすることから、日本語、英語の他に中国語、韓国語にて情報提供を行います。



図 携帯端末 (UC) による情報提供イメージ

3. 実験概要

【実証実験期間】2011年1月17日(月)～2月16日(水)

【端末貸出場所】津和野町観光協会

【端末貸出時間】9:00～17:00

【実験エリア】津和野町中心部(下図のとおり)

なお、実験終了後も引き続き端末貸出、情報提供を行う予定です。



4. 今後の展望

モビリティサポートモデル事業は、身体的状況、年齢、言語などを問わず誰もが利用できるシステムを構築することが目的です。全国的に本事業を水平展開するためには、大都市のみならず、小規模な都市においても実証実験を実施し、移動支援サービスの普及・展開を促進することが必要であると考えています。

津和野町は、人口1万人以下の都市でありながら、外国人観光客の増加や高齢者の観光客の増加が予想されています。津和野町のような小規模な都市において安全かつ円滑な移動を促すソフト的な施策を実施することは全国的に重要であると考えています。津和野町では、ICTを活

用した障がい者、高齢者にもやさしい観光街づくりを推進していきたいと考えています。

<問い合わせ先>

●津和野町商工観光課

Tel:0856-72-0650

<http://www.tsuwano.ne.jp/kanko/modules/pico/index.php/content0226.html>